工事検査ワンポイントアドバイス
「工事検査の検査時間について」
（効率的な検査の実施）

工事検査通信　No.96
発行：　R７年7月８日
出納局　工事検査課



今年度から専門工事検査員になりました若井です。
よろしくお願いします。
工事検査課の運営方針の一つに検査時間の短縮がありますが、詳しく教えてください。



工事検査課では、効率的な工事検査の実施として、検査１回あたりの検査時間について、書類を確認する検査を２時間以内、現場で検測等を実施する検査を９０分以内に完了することを目標に取り組んでいます。工事の規模等によっては、目標時間を超える場合もありますが、極力目標時間内となるよう、効率的な検査を心がけています。



検査時間を短縮することで、どのようなメリットがありますか？



建設業界においては、「働き方改革」や「ワークライフバランス」への対応が求められています。
そのため、工事検査課では、発注者・受注者の負担（検査に関わる人員、移動時間、対応等）を軽減させるため、検査時間をできるだけ短縮することとしています。



発注者・受注者の負担軽減が狙いですね。検査時間を短くする具体的な方法は？



適切で適正な工事検査を短時間で行うためには、検査員も事前準備が必要になります。図面や数量総括表など、工事の内容・規模が分かるものを発注者側から情報提供してもらうことで、どのような工事なのか把握でき、時間短縮につながります。



事前に工事内容を把握しておくことが大切なのですね。
ほかに取組みはありませんか？



工事検査時間の短縮については、遠隔臨場検査の活用も有効です。検査そのものの時間を短縮するわけではないのですが、書類検査箇所や現場までの移動時間の短縮が図られ、トータルの所要時間を短くすることができます。
遠隔臨場については、今後も積極的に活用していきますので、発注者・受注者ともに環境整備と対応をよろしくお願いします。（資料①・・・遠隔臨場）



そのほか、検査時間短縮に向けたアドバイスはありますか？



検査員は、工事の内容や検査のポイントを把握した上で検査に臨んでいますが、検査中のコミュニケーションが円滑に行えれば、検査がスムーズに進みます。
発注者及び受注者とも検査員の質問に対して、無回答とか、資料の提示に時間を要する場合が見受けられますので、お互いに準備しておくことが必要です。



発注者・受注者も含め、お互いに準備しておくことが時間短縮につながるということですね。ありがとうございました。

※参考【工事検査課の運営方針】
効率的な工事検査の実施
第２期復興・創生期間の最終年度であり、防災・減災、国土強靱化等の安全・安心な暮らしを確保するための工事が増加していることから、円滑で効率的な工事検査を行うとともに、ＤＸの推進や検査時間の短縮を目的にインターネットの双方向通信による遠隔臨場検査の推進を図る。

＊＊

●本日のポイント
・検査時間短縮で、発注者・受注者の負担を減らす。
・そのためには、現場の状態を検査する側も含め、事前に把握する。
・また、「遠隔臨場」の活用も考慮する。

【登場人物の設定】　〇福島県 出納局 工事検査課



：唐井(ｶﾗｲ)検査員



：若井(ﾜｶｲ)検査員